

第4章 日本版デュアルシステムによる 職業訓練修了後の評価の方向性

第4章 日本版デュアルシステムによる職業訓練修了後の評価の方向性

第1節 評価の実施についての課題と方向性

1-1 評価の実施についての課題

アンケート調査、ヒアリング調査等の結果から、評価の実施における課題・今後改善すべき事項をまとめると、「受け入れ企業の確保に関する課題」、「受け入れ企業との事前調整に関する課題」、「受け入れ企業での評価の基準に関する課題」、「受け入れ企業の負担増に関する課題」及び「評価結果の活用に関する課題」があげられた。

1-2 評価の実施についての方向性

上記1-1の課題については、今回、できる限りモデル訓練科の評価項目例、評価項目作成支援ツールの機能面について充実を行う際に改善を図ったが、以下の課題については、今後さらに検討を重ね改善を行う必要がある。

(1) 受け入れ企業の確保

平成16年度は、日本版デュアルシステムによる職業訓練実施の初年度であり、制度が定着していない等の理由から、受け入れ企業の確保が難しかったとの意見があった。また、受け入れ企業の確保の遅れから、企業実習における評価項目の作成に十分な時間がかけられずに、満足な評価ができていない状況があった。

今後は、日本版デュアルシステムの制度が定着し、職業能力開発施設等でのノウハウの蓄積が進むに従い、解消されるものと思われる。

(2) 受け入れ企業との事前調整

受け入れ企業を確保し評価を実施するための準備の段階での課題としては、「受け入れ企業との密な連絡と信頼関係の構築及び受け入れ企業との十分な事前調整の必要性」についてあげられた。

また、企業の担当者と訓練内容を打合わせる段階で、「両者の業務の関係上時間的な制約があり、内容を詰めるのに日数がかかる。また、評価項目のモデルが無い作業内容については、評価項目の作成にかなり時間が要する。」等、評価項目作成に時間を要している現状である。

今後は、当該評価項目作成支援ツールをさらに充実するとともに、評価を実施するための準備の段階で、企業の担当者の指導能力の把握、企業の業務内容の把握、訓練生の作業内容の把握、使用する機械等の把握、企業秘密の有無の把握等を行い、受け入れ企業の担当者との密な連絡と信頼関係の構築が必要である。

(3) 受け入れ企業での評価の基準

受け入れ企業での評価を実施する場合の課題としては、「受け入れ企業により評価基準、評価方法が異なり適正な評価ができない。」ことがあげられた。

今回作成した評価項目作成支援ツールにおいても、設定項目に対する評価基準については、「新入社員に対する評価と想定して、A（できる）、B（だいたいできる）、C（追指導を要する）により評価する。」との表現に留めており、評価については受け入れ企業の各担当者の判断に頼るしかないのが現状である。

今後は、評価を実施する者が理解しやすい評価基準を模索し提示する必要がある。

また、ヒアリング調査から企業の担当者の評価の視点として、「一般通念による作業時間と完成度合いとの比較による評価」「社内基準との対比」「仕事に取り組む姿勢」「社内標準時間（対応スピード）」「単価（効率性、内容）」「製品の作成個数（標準的な作成個数との比較）」「コミュニケーション能力」「欠勤・早退・遅刻の日数」「人間性」「ビジネスマナー」「安全管理」「施工の正確度とスピード」等のキーワードがあげられた。

(4) 受け入れ企業の負担増

企業に企業実習実施の依頼を行う場合の悩みとして、「評価まで依頼すると、受け入れ企業の負担の増加となり心苦しい。」との回答があった。また、評価についても、「各企業を巡回した時に、口頭で評価をいただくこととした。」などの対応も見受けられた。

今後は、評価に使用する様式、評価項目の内容等を検討し、できるだけ企業に負担をかけないで的確な評価が行えるものにする必要がある。

(5) 評価結果の活用

企業からの評価結果を受けた後に、「評価結果を受講者の就職活動、適性の発見等に活用する必要がある。」等の意見があったが、評価結果の訓練生への提示については、「評価結果は本人には渡していない。習得の不十分な点だけを今後の注意点として本人に話した。」等の対応を行った職業能力開発施設が多い現状である。また、「本人へ評価結果を通知しなければならないが、悪い評価を受けたときの取扱いに苦慮している。」等評価の低い者への対応についても考慮する必要がある。

就職活動における評価結果の他企業への提示については、「評価は他の会社への就職時の参考となるのか疑問である。他の企業への就職では、訓練生自身が作成した製品を見せることが効果的である。」「同じ分野の企業であっても、使用する機械等（本体自体の違い、機能・能力・特殊性の違い、本体の大きさの違い等）が異なるので、評価結果を他企業に持ち込んでも通用するか疑問である。」等の意見があった。

今後は、これらのことを考慮して、評価を行うことの目的、評価結果の効果的な活用について、再度確認し検討を行うことが必要である。

第2節 様式、評価項目の内容についての課題と方向性

2-1 様式、評価項目の内容についての課題

アンケート調査、ヒアリング調査等の結果から、様式、評価項目の内容における課題・今後改善すべき事項をまとめると、「様式が複雑なので簡略化した様式での評価の要望」が多くあげられ、その他「評価項目の内容についての課題」もあげられた。

2-2 様式、評価項目の内容についての方向性

上記2-1の課題については、今回、できる限りモデル訓練科の評価項目例、評価項目作成支援ツールの機能面について充実を行う際に改善を図ったが、以下の課題については、今後さらに検討を重ね改善を行う必要がある。

(1) 簡略化した様式での評価

様式については、「企業の担当者の負担を軽減する必要があるので評価項目は減らすことが望ましい。」「評価に用いる様式は、2～3枚が限度である。」「様式4のVは製作の過程の一部分だけで課題を作成しているが、工場のラインでの作業であった場合、課題としての評価は難しい。」等の意見があり、企業の担当者の負担を軽減するために簡略化した様式での評価の要望が多い。

また、具体的な様式等の改善に向けての提案としては、「科目内容は授業要目で精査されているので、様式2は不要ではないか。」「様式3と様式5-1、様式4と様式5-2を、一つの様式に統合して、記入しやすくする必要がある。」「様式3、様式4については、評価項目が多すぎると企業側の負担が増えるので、様式3の作業内容を大枠で括り、訓練指標として置き換え、様式4と一本化し簡素化を図る必要がある。」「管理職レベルの業務内容を実習させることは考えられないので、様式1、2のレベル3、4の項目の必要性を検討する必要がある。」等指摘があった。

今後は、上記の意見、当該評価項目作成支援ツールの定着状況及び当該様式の使用(活用)状況等を勘案して、できるだけ企業に負担をかけないで的確な評価が行えるものにする必要がある。

(2) 評価項目の内容

評価項目の内容については、「初心者が実施しないような評価項目が含まれており、それは無駄となる。」「現場の担当者が理解できない言葉を使用すると評価ができない。」「様式3の履修「状況」の作業内容が、「～できる」と表現されているが、「～できた」等の表現が良いのではないか。」「様式4のIVコンセプチュアル・スキルの評価については、外に現れにくい心の問題を短期に評価することができるのか。また、客観性が確保できるのか疑問が残る。」等の意見があり、上記2-2(1)と併せて検討する必要がある。

ある。

第3節 評価項目作成支援ツールについての課題と方向性

3-1 評価項目作成支援ツールについての課題

アンケート調査、ヒアリング調査等の結果から、評価項目作成支援ツールにおける課題・今後改善すべき事項をまとめると、「画面構成、デザイン等の改善」「作成の仕方等の説明の充実」「便利な機能の追加」等があげられた。

3-2 評価項目作成支援ツールについての方向性

上記3-1の課題の内「画面構成、デザイン等の改善」「作成の仕方等の説明の充実」については、今回、充実を図ったが、「便利な機能の追加」については、今後さらに検討を重ねる必要があり、以下にその内容をまとめた。

(1) 編集機能等の充実

編集機能等の充実については、「訓練計画、カリキュラム、出席の状況、指導要録等を関連付けて全て収録されたものにして欲しい。」「様式5の編集において「仕事」の「作業」をクリックすると、それに関連する「作業内容」(様式3の内容)及びその評価(様式4の内容)が表示できないか。」「様式3、4の企業が利用する証明書の記載例を、各企業にあった様式の内容で記入方法が分るように吹き出しがついた書式で印刷ができるようにできないか。」「様式1～5の重複する項目(内容)が、各様式間で自動的に転写(連動)するように改良できないか。」「検索機能を充実する必要がある。例えば、「金型*製作」と入力すると金型における製作に関する仕事と作業だけが抽出され、データとして加工可能な機能を追加できないか。」等の意見があったが、当該評価項目作成支援ツールは、エクセルを活用して編集を行うこととしていることから、現状では対応は難しい状況である。

(2) エクセル上での編集機能の充実

エクセル上での編集機能の充実については、「エクセルデータの構成を仕事内容でオートフィルターが使えるようにして欲しい(現状の行わけではフィルターがかけられない。)。」「評価項目作成画面にて、メインフレームをさらに上下に分割し、上フレームにリスト画面を、下フレームに評価作成画面をそれぞれエクセル形式で表示すれば、様式を作成する際にコピーアンドペーストが容易になる。」等の意見があった。

今後は、上記の意見について、エクセルの機能で解決可能であるかの検討を行い、編集機能の充実を図る必要がある。